

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島中学校	校長氏名	高畑 伸穂	生徒指導主事氏名	後藤 貢
-----	-----------	------	-------	----------	------

**取組事例名 『体育祭 縦割り活動』**

**取組のねらい 『キーワード 共感的人間関係づくり』**

体育祭に縦割り活動を取り入れ、吉中ソーラン、色別の集会・練習・応援など生徒主体の活動を沢山行うことにより、学年を超えた生徒相互の人間関係を育む。

**取組の具体的内容 『キーワード 上級生から下級生に継承』**

3年生のリードのもと、縦割り集団で、当日までの取り組みや当日の応援を行うことで、2年生に次年度は自分たちでやるという意識をもたせる。

今年度から始めた「吉中ソーラン」を、来年度は、上級生から下級生へと展開させ、全校生徒による吉中ソーランをつくりあげたいと考えている。



【体育祭色別集会：縦割り活動開始】



【色別練習：3年生からの指示】



【応援の様子：旗を振るのは3年生】



【色別リレー】



【色別の法被を着て踊る吉中ソーラン】



【色別の得点板】



【閉会式での成績発表】



【色別集会：体育祭の縦割り活動終了】

### 取組の課題・創意工夫『キーワード 事前の取り組みをしかける』

生徒達がより深く共感できるよう、事前に教師がリーダーとなる学年を中心に指導を十分に行い、生徒と教師が共に取り組む事が大切である。

また、この縦割りの取り組みを体育祭だけに終わらず、文化祭の合唱発表やその他の活動にもつなげ、上級生がリーダーとなる場面を仕組む事で継続した取り組みになるようにする。



【文化祭（合唱コンクール）の縦割り練習会の様子】

### 取組の成果（効果）『キーワード 所属意識の高まり』

今までの学級単位の競技・競争から、異学年の集団になったことでより仲間意識が高まりそれによって、どの生徒もより一層応援や競技を頑張るようになった。

特に3年生については、色別集会の時からリーダーシップを発揮し、当日も率先して競技を盛り上げていた。また、そんな上級生の姿を見て1・2年生は来年は「自分たちがやるぞ!」と思ったようである。



【体育祭当日の朝 競技開始前の様子】

### 今後の展開『キーワード 本校の伝統に』

今後は生徒主体の取り組みが体育祭のみならず、様々な活動で行えるようになることで、仲間を大切に、思いやる生徒集団の育成を図りたい。そうすることが共感的な人間関係を育む事への手立てになると考えている。

### 他校へのアドバイス『キーワード まずは、やってみる』

今まで行って来たことに、手を加えたり、何かを変えたりするにはエネルギーが必要となるが、現状を改善していくためには、みんなの共通認識のもと、まずは一歩を踏み出すことが重要である。